

初秋の谷川連峰主稜線を辿る山旅 谷川岳～仙ノ倉山～平標山

実施日 2015年9月19日(土)～20日(日)
 天候 9/19 晴れ後霧 9/20 霧後晴れ
 リーダー 瀧澤 きよの
 参加者 涌井良明、中村友子、石原勝正、
 瀧澤きよの 計4名
 費用 JR11,540円 ロープウェイ1,230円
 600円

タイム 9/19 上毛高原(7:53～8:00)ロープウェイ駅(9:09～9:19)熊沢避難小屋(10:15～10:20)天狗の留り場(10:50)肩の小屋(11:47～12:15)オジカ沢の頭(12:40)小障子ノ頭(13:35)大障子避難小屋(14:20) 泊
 9/20 大障子避難小屋(5:55)大障子ノ頭(6:35～6:40)万太郎山(7:25)エビス大黒ノ頭(10:00)エビス大黒ノ頭避難小屋(10:30～11:10)仙ノ倉山(11:00～11:10)平標山(12:50～13:00)平標山ノ家(13:52～14:00)元橋BS(15:25～15:49)湯沢駅(16:23)

9/19 上毛高原駅からバスで50分、ロープウェイ山頂駅行きに乗り大勢の観光客、登山客でいっぱいのロープウェイ駅に着く。5連休だからね。

生まれて初めてのロープウェイに乗車。憧れのロープウェイは高度を上げて大きな虹で大歓迎してくれました。わずか10分で天神平駅、いいね-ロープウェイは。

降りると霧雨が降っています。台風20号は去った？はずだが、天気予報では、曇り後晴れだったはず。



支度を整え右側からの登山道を登ります。木道、階段と良く整備されています。リフトからの分岐手前3重の大

きな虹が又お出迎え。感激。

シルバーツアーを追い抜き熊沢避難小屋にて一息。元気なシルバーが多いな。



いよいよ谷川らしい登りになります。岩場が始め天狗の留り場で景色を堪能して、また岩場を登り返して階段が見え始める

と僅かで肩の小屋だ。ここでお昼ご飯。霧、小雨・風。雨具を装着。大勢の登山客もここで下山の様子。仙の倉山迄行きそうになさそうだ。

今日の泊まり場である、大障子避難小屋が気になります。

早々に出発。トマの耳はパス。小屋正面の登山道を

下る。中ゴ-尾根への分岐を過ぎると、足場の悪い岩場が連続、おまけに霧雨と風。



チビリーダー、風にあおられ、露払いをして岩尾根を直登しザレ場を巻きようやく、オジカ沢の頭

に着く。立つのも大変です。わずかに下った所がオジカ沢避難小屋。3～4人は大丈夫そうです。ドアあり、板張りあり。

アップダウンを繰り返して霧で5分先が見えないが、見えました！大障子避難小屋。先客3人、仲間に入れてもらって、やれやれ泊まり場確保。支度をして小屋から約7分、沢の水場に水汲み。これが美味しい水です。早速夕飯の支度、思いの物を温めて、トン汁を飲み、おかずを食べ、先客3人の話を聞く。おばさんは(同年齢位)もう1日停滞するとか。疲れて、すぐ就寝です。

9/20 4時半前起床。お雑炊を食べ外に出ると又昨日と同じように霧雨、風。

石原さんから昨日の夜は星が見えて町の明かりが綺麗だったのになー、と

言う報告を聞き、しょうがない、これが上越国境の稜線だ。いざ出発。

何も見えない中、岩稜のアップダウンを繰り返して大障子の頭の岩場を超えたあたりから紅葉が見られるようになった。花もウツボ草、耳なし草、梅鉢草、フウロ、秋の麒麟草等。なんとって黄色紅葉、赤の紅葉、赤い実のナナカマド、緑の熊笹に元気付けられて、万太郎山山頂。



アップダウン繰り返して、越路避難小屋ここも7人位は泊れ、綺麗だしドアノブも健在なり。

毛渡乗越の最低鞍部からが又急登だ。

岩場あり、滑る。雨で道も慎重に。人っ子一人合わない。

ここまでくるともはや山好きではなく、ただの山キチガイか、修行層かだ。

なにしろ風が強く、休む場所がない。

小腹も空いてきたし。見えました。エビス大黒ノ頭の避難小屋だ。ここで軽い昼食とする。3人は楽に泊まれる。綺麗だし、ドアノブも健在なり。あったかいお茶を飲み、しっかりお腹を満たし外に出ると始めて人に会う。20歳代の青年で今朝西黒尾根から来たと言う。自分も20歳代の頃同じように夜行日帰りをやったことを思い出す。



急登を登り出すとまた人に会う。

さすがに仙ノ倉山は大きい。広い山頂で記念写真。日が差し始め紅葉が美しい。振り返ると、稜線が素晴らしい。



ハイカーでも大丈夫な木道、階段と話しながら平標山へ。ここは、また人が多い。雨具を着ているのはこぶし会4人だけ。着替えて記念写真を撮り、初めて下る平標山の家。松手山しか下った事がないので、興味深々です。



これまた良く整備された階段を下りて、平標山の家。水はあるし、テン場もある、ここにデポして、仙ノ倉山迄ハイキングしてもいいかも。登山道を下る事40分アスファルトの道路に降



りる。自家用車も何台か泊まっています。約40分平標登山口バス停に。

先客二人、お茶を飲みながら待っています。バスで約40分越後湯沢駅着。

駅構内の温泉、酒風呂に入り、反省会をして、始発新幹線(たにがわ)にて帰路につきました。



2日間雨、風の中、強行?登山でした。頼りないリーダーを支えて頂きありがとうございました。おかげさまで、心に残る紅葉と登山をまたひとつ頂きました。

(記・瀧澤 きよの)

(写真提供・涌井良明/石原勝正)

